

1990 Technical NRDC Meeting 報告

札幌学院大学

千葉 正喜

1. はじめに

1990 Technical NRDC Meeting は11月13日から15日にウィーンのIAEAの本部で行われた。参加者はIAEAのスタッフ9名の他、日本からは理科学研究所の橋爪さんと天童さんのふたり、それにNRDFから千葉、ソ連からはCAJADのF.E. Chukreev, CDFEのV.V. VarlanovそれにCJDのD.A. Pakhomovaの三人、アメリカからはNNDCのV. McLaneひとり、そしてOECDからはNEA DATA BANKのS. Websterであった。

主な議題は

- 1 各センターの報告
- 2 人員削減対策について
- 3 CINDA関連事項
- 4 EXFOR関連事項
- 5 ENDF関連事項
- 6 計算機関連事項

であったが、以下ではNRDFの活動に関連する点を中心に報告する。

2 各センターの状況

各センターの報告では、NDSやNNDCから予算または人員が削減されており、特に財政当局の理解を得る必要性が強調された。NDSはこのような状況を説明するペーパーを用意しようとしている。

3 EXFORへの変換に関して

CPNDのコンパイルングに関して、NRDFから送ったデータで構成されるEマスター・ファイルはE004, E007, E008からなることが述べられ、そして、NRDFから送っているデータの品質の良さが評価された。引続き、NRDFデータをEXFORへ変換をすることを表明してきた。

ChukreevからはNRDFデータのリファレンス・リストの要求があり、改定したリファレンス・リストを送ることにした。このリストにより日本以外のデータでEXFORに含めて欲しいデータがある場合、Chukreevはその旨連絡する。この場合、マンパワーの許すかぎり変換することになった。

日本の2グループは、一義的には日本のCPNDをコンパイルすることを確認した。他の地域のデータのコンパイルもしてよいが、コンパイルの重複をさけるためChukreevが引続きチェックする。

4 計算機関連

Chukreevからパソコンでstopping powerを計算するプログラムを開発したことが報告され、そのデモンストレーションがあった。

NDSでは、同じくパソコンによるEXFORデータコンパイルングプログラムの開発状況の報告があっ

た。このプログラムはパソコンの画面に用意されたコーディングフォーマットにデータを埋め込むようになって
いる他、ホスト計算機の辞書を検索した結果の取り込み、チェック・プログラムが実行した結果を見ながらコン
パイル・データを修正するなどの機能を備えていた。

現在EXFORのチェック・プログラムは、NNDCで開発されたVAXバージョン、NDSで開発されたI
BMバージョン、それにCAJ a Dのバージョンの三種類ある。

2とも関係して、NDSの計算機がVAXに変更になった場合、NDSのチェックプログラムのメインテナ
ンスができなくなり、VAX計算機が利用できないセンター、すなわちNRDFとしては今後どのチェック・プロ
グラムを使うべきかの問題が生じている。

5 その他

チューリヒで行われる予定の国際会議には、これらのデータ活動が(1)中性子データネットワーク、(2)
荷電粒子核反応データネットワーク、(3)光核データネットワーク、(4)構造データネットワーク、
(5)オンライン・デモンストレーション、に分けられ、それぞれ分担して発表されることになった。

次回の核データセンター(NRDC)会議は1991年10月前半の5日間を予定し、10月7日から11日
が提案されている。

6 おわりに

NRDFからEXFORへ変換して送っているCPNDデータに関する事項を中心に 1990 Technical NRDC
Meeting の断片を報告した。この会議の議事録案は著者の手元にあるので、関心のあるかたは連絡されたい。